

土木学会建設系 NPO 連絡協議会
 試行事業 FS 検討結果中間報告会の開催について(新聞報道)

建設通信新聞 (2013.03.12)

橋の長寿命化を報告
 土木学会の建設系
 NPO 連絡協議会

土木学会の(仮称)建設系 NPO 連絡協議会は11日、東京都新宿区の同学会で事業試行分科会試行事業 FS 中間報告会を開いた。花村義久副会長は「3つの分科会が動いている。具体的なテーマを取り上げ、運営していく中で問題点を探り、道を切り開いていく」とあいさつした。写真。報告会は、橋の長寿命化促



進事業支援プロジェクト、古都の無電柱化推進事業、がれき処理「Green hill 構想」を適用した Capa city Building 施策展開について、3つの NPO が現状と今後の見通しを説明した。

橋の長寿命化に取り組んでいる NPO 法人シビルサポートネットワークは、財政難の地方自治体を支援するため、事業手法として PFI の導入を提案しているが、ビジネスモデルの検討が遅れていることと、協力してくれる自治体が決まらないことを課題に挙げた。同協議会が2014年4月に中間支援組織に移行すれば、PPP 関連や同様の活動をしている NPO の情報提供、自治体の協力を得るための支援などを求めた。

日刊建設工業新聞 (2013.03.13)

試行3事業の中間報告会開く
 土木学会建設系
 NPO 連絡協議会

土木学会(小野武彦会長)の「建設系 NPO 連絡協議会」(代表・花村義久シビルまちづくりステーション理事長)は11日に連絡協議会を開き、中間支援組織の設立へ向けた試行事業の取り組み状況などを報告した。同協議会は、中間支援組織が担うべき役割や課題な



どを探るため具体的なプロジェクトを立ち上げており、これらを積極的に展開していく方針を確認した。

冒頭、花村代表は「実際に運営する上でどうなっていくか、具体的なテーマを取り上げて問題点を探り、新しい方向性を探していきたい」とあいさつした。写真。

同日は、進行中の4事業のうち、▽橋の長寿命化促進事業への支援▽古

都における無電柱化促進事業▽がれき処理によるグリーンヒル構想を適用したキャパシティビルディング施策について中間報告が行われた。

橋の長寿命化促進のプロジェクトでは、土木系職員が不足している中小の地方自治体に対する計画策定支援や、PPP 手法の導入などによる財政的課題の検討支援などを行う方向だ。実施に協力してもらおう自治体を決めることを課題に挙げた。

古都における無電柱化促進事業では、外資系ファンドからの提案を踏まえ、京都市左京区の新町通りの無電柱化事業の実現可能性などを検討している。街づくりと連動した取り組みの検討や、整備協議会(仮称)による計画案作成などを今後の取り組みに挙げた。

がれき処理を踏まえたキャパシティビルディング構想では、津波で発生したがれきや生活・産業廃棄物を有効利用し、防潮堤としても機能するような丘グリーンヒルを構築することなどを検討している。アジア・太平洋諸国への支援も視野に入れ、トンガの政府関係者らと協議を進めているという。